

## 傍聴者から頂いた御意見

第3回「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン検討委員会」に来られた傍聴者6名のうち、全ての方から御意見を頂きました。

内容は以下のとおりです（原文のまま全文を引用しています）。

活発な議論で、有意義であると感じました。

京都のまちに市バス・地下鉄が必要であるという思いから、活発な議論になったと思います。

市民に運賃値上げを納得して頂き、ご利用頂くために、交通局の「覚悟」が伝わるような表現でという指摘は両事業存続のための大切な思いと受けとめました。

- ・運賃改定をしてでも、公営を守ってください。  
ただ、運賃改定をするなら、利用者に少しでも還元する方策が必要だと思います。（たとえばポイント制ではなく回数券の割引率を上げるとか。）
- ・バスのダイヤを減らすと、必ずお客様は減ります。（注意してください。）

運賃値上げが今回の経営ビジョンの肝であるとは思いますが、それがどのぐらいで実現されるのか、本当に令和6年度に始められるのかということが書かれていない。どのようなステップでなされるのかまでは書く必要はないが、京都市交通局の一存でできるのか、できないのか、できないのであれば令和6年度にできるように何か行動を取られているのかという議論も聞きたい。

- ・限られた時間の中でこれまでの取組を説明する必要はない。論点がボケるだけ。本編にも必要なのかとも思える。計画の中に書くべき。
- ・バスと地下鉄は財政構造は違う。目標も違う。前回のビジョンにこだわって一緒に書いてあるが、別々に記載すべきではないか。市バス編、地下鉄編で。
- ・計画の中身がわかりにくい。計画である以上、まず何を目標にするのか、それは何故か、それを達成するために何をいつまでに実施し、何を実施しないのか数値目標を含めて記載すべき
- ・経営健全化出資について記載がない。値上げを前提にするならしっかり書くべき。敬老乗車証制度の影響も書かれてない。
- ・ビジョンの中では良いが、国に提出する計画は、収入と支出の動きをもっと詳細に出す必要があるし、結局中身がわからない資料になっている。
- ・クラウドファンディングの項目は何を言いたいのか意味不明
- ・減便と旅客数の今後とはバランスとれてるのか？結局答しか書いてない印象

- ・広告収入、駅ナカ収入でリスクヘッジすることが可能なのか。
- ・運賃収入（旅客数）が減れば附帯収入も減ってしまう。
- ・運賃改定以外の収入増加策の具体的な取組みをもう少し記載しても良かったのではないか。運賃改定の取組みがメインになってしまっている。